

メッセージアウトライン 「神のことばは出来事となる」 2017年3月19日(日)

聖書箇所：ヘブル人への手紙11：1～3、12：1～2

タイトル：「神のことばは出来事となる」

テーマ：「信仰とは何か？」よくわかっているようで、実はうまく言い表せないものの一つである。ヘブル人への手紙の著者は、「信仰」を一言で表現している。「神のことばは出来事となる」このことを信じることだと。——これを別の言い方にかえると神のことばは必ずその通りになると信じるのが「信仰」だと言うのだ。私たちの持つ信仰はその信仰に合致しているだろうか。私たちが望んでいる事からは何だろうか。見当違いな信仰になっていないか確認してみよう。

1. ヘブル人への手紙について

- ①著者不明
- ②宛先——たぶんユダヤ人クリスチャンに対して
- ③書かれた時代——AD65～69年頃(?)
- ④内容——イエス・キリストこそ最高の神の啓示である
- ⑤書かれた動機

2. 「信仰とは何か？」(信仰の本質)

- ①旧約時代の多くの信仰者たちの例
- ②その中に見られる共通項——信仰
- ③決して誤解してはいけないこと

3. 賞賛された信仰の例

4. 信仰の先輩たちの励まし

- ①旧約時代の聖徒たち
- ②イエス・キリスト

5. 結論

- ①この手紙が書かれた時代の問題点と私たちの時代の問題点
- ②信仰の創始者であり、完成者であるイエス・キリストを見上げる
- ③私たちが信じているものの再確認